

IT、WLBと生産性

専修大学 櫻井宏二郎

本稿の構成

1. はじめに(問題意識)
2. IT等の効果についての分析
 - 2-1. アンケート結果の概要
 - 2-2. 推計モデル
 - 2-3. 推計結果
3. ITとストレス、労働時間との関係
 - 3-1. アンケート結果の概要
 - 3-2. 推計とインプリケーション
4. おわりに(結論)

1. はじめに(問題意識)

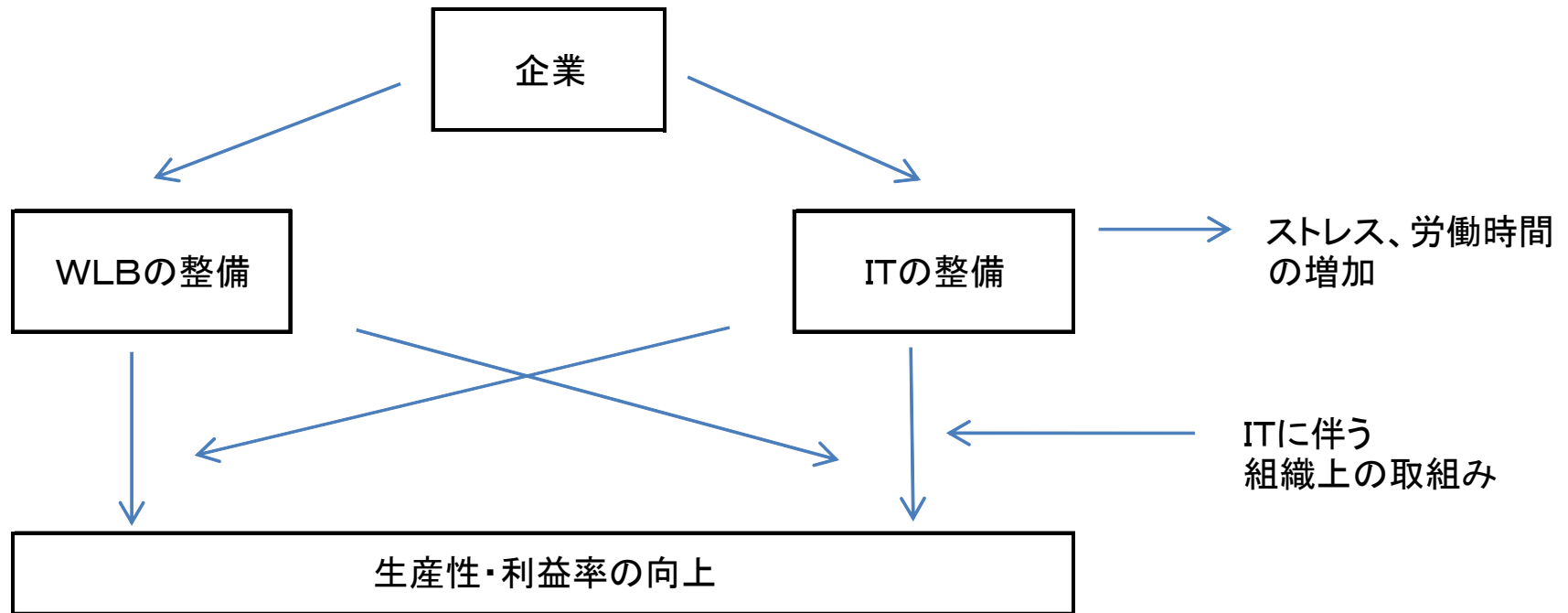
研究会全体のテーマ:

WLBが企業の生産性にどのような影響を与えているかを実証的に分析する

本稿の目的:

ITとWLBがどのように関わって、生産性に影響を与えているかを実証分析する。併せて、ITとストレス、労働時間との関係を分析する。

図表1 本稿の問題意識



2. IT等の効果についての分析

ITが生産性に与える効果を高める施策

(1)ITに伴う組織面等の取組み

- ・意思決定権限の集中化
- ・意思決定権限の分散化(権限委譲)
- ・経営陣・中間管理職・一般社員間の業務見直し
- ・社内業務のペーパーレス化
- ・部署間の重複業務の見直し

ITが生産性に与える効果を高める施策

(2)WLB施策

- ・育児のための短時間勤務制度
- ・介護のための短時間勤務制度

WLBが生産性に与える効果を高める施策

ITの整備

- ・パソコンをほぼ一人に一台配備
- ・ほとんどの社員にメールアドレスを付与
- ・社内申請・承認手続きの電子化

推計結果のまとめ

第1に、WLB制度が充実している企業ほど、またIT整備が充実している企業ほど、生産性や利益率が高くなる傾向が認められる。

第2に、IT整備の充実度が生産性や利益率に与える効果は、組織面等での取組み・見直しを同時に行った方が大きい。ただし、「中間管理職と一般社員との権限の見直し」、「部署等の組織の統廃合」、「部署間の重複業務見直し」はIT整備の効果に影響を及ぼさないことがある。

第3に、WLB制度とIT整備との間の関係を交差項で見ると、「育児のための短時間勤務制度」および「介護のための短時間勤務制度」は、IT整備が生産性や利益率に与える効果を高め、一方、「パソコン」や「メール」の整備は、WLB制度が生産性や利益率に与える効果を高めている。このことは、WLB制度とIT整備の一部は互いの効果を高め合う補完的な関係にあることを示唆している。

3. ITとストレス、労働時間との関係

推計結果

(1)一般社員

1. IT技能の低い人がストレス増、労働時間増を感じている
2. 必要とされるIT技能が高くなったと感じている人がストレス増を感じている
3. 年齢が高い人ほどITでストレス増を感じている

(2)管理職

1. IT技能はストレスと無関係
2. IT技能の高い人がITで労働時間が増えている
3. ITで作業効率上がったと答えた人でストレス増、および労働時間増
4. WLBは社会的責任と認識している企業ほどストレス増少ない

対策へのインプリケーション

一般社員

IT技能の制約が問題

→ IT技能を向上させる研修等が有効

管理職

IT技能は制約になっていない

→ むしろ仕事熱心がストレス・労働時間増へ

WLBの拡充が有効？

4. おわりに(結論)

<生産性に関して>

1. IT、WLBは生産性等に寄与する
2. ITと組織面取り組みとの補完性
3. ITとWLBとの補完性

<ITによるストレス、労働時間に関して>

4. 一般社員にはITの研修が有効
5. 管理職には他の対策(WLB?)が必要